

## 佐賀県研究成果情報（作成 2023年2月）

[情報名]「さえみどり」は、三番茶を摘採することにより翌年一番茶の摘採適期が早くなり、  
収量・品質ともに優れる。

[要約]「さえみどり」では、二番茶後に浅刈りを行わず、三番茶を摘採することにより芽数  
型の枝条構成となり、翌年一番茶の摘採適期が約4日早まる。同時に収量は多くな  
り、荒茶の化学成分および品質も向上する。

[キーワード] チャ、さえみどり、三番茶摘採、全窒素、NDF

[担当] 佐賀県茶業試験場 茶樹研究担当

[連絡先] TEL:0954-42-0066 メールアドレス: chagyoushiken@pref.saga.lg.jp

[分類] 普及

[部会名] 茶業専門部会

[専門] 栽培

### [背景・ねらい]

「さえみどり」は早生で高品質な優良品種として市場評価が高く、県内でも導入が進んで  
いる。しかし、主要品種の「やぶきた」を中心として構築された二番茶後に浅刈りを行う管  
理方法では収量低下の問題を生じていることから、「さえみどり」に適した管理方法を明ら  
かにする。

### [成果の内容]

「さえみどり」は三番茶を摘採することにより、浅刈りに比べて、以下の特徴がある。

1. 新芽の生育が速く、目標収量に早く達する(図1)。
2. 一番茶を同一の出開度で摘採した場合、生葉の全窒素含有率が高くなり、NDF含有率が低  
くなる(図2)。
3. 3か年の平均収量は、一番茶では3%増加し、二番茶では14%増加する(表1)。
4. 一番茶は芽数型の枝条構成となり、新芽数が43%増加し、百芽重は36%減少する(表1)。
5. 一番茶の全窒素含有率が高く、NDF含有率が低くなる。また翌年の二番茶では、渋みを感じ  
るタンニン含有率が低くなる(表1)。
6. 官能審査評点は一・二番茶ともに高く、特に外観と香気が優れる(表2)。

### [成果の活用面・留意点]

1. 「さえみどり」の二番茶摘採後の枝条管理に活用できる。
2. 試験開始前の2018年に中切り更新を実施した(樹齢25年生)。
3. 浅刈りは、前年の浅刈り面と秋整枝面の間(2019年:58cm、2020年:60cm、2021年:64cm)  
で実施した。
4. 樹高が高くなるため乗用型摘採機で収穫できるのは3年間と予想される。
5. 三番茶を摘採した場合、約17,000円(2022年)の増益がある。また三番茶芽の防除は、発  
生状況に応じて実施する。
6. 全窒素は旨みを表し、多いと品質(単価)が高く、NDF(中性デタージェント繊維)は  
生葉の熟度を表し、多いと品質(単価)が低くなる。

[具体的なデータ]

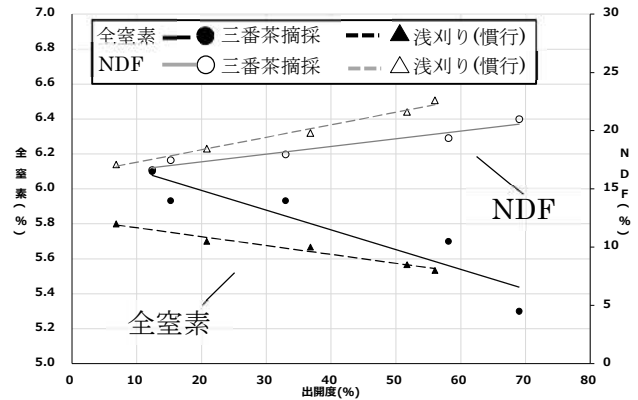
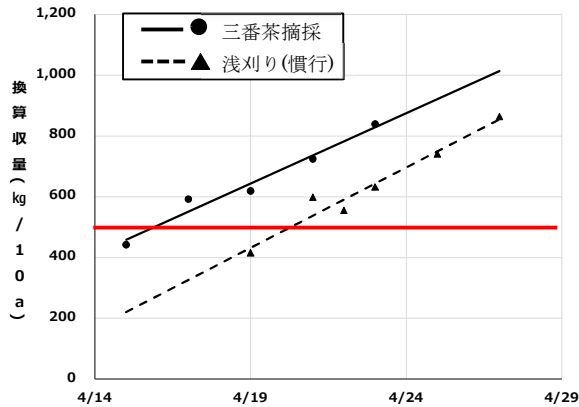


図1 摘採日と推定収量の推移(2022年)

図2 出開度と全窒素・NDFの推移(2022年)

- 1) 摘採日の4日前から4~5日後まで2日間間隔で新芽を採摘し、新芽数および百芽重を調査し(3反復)、新芽を殺青、乾燥、粉碎後、近赤外線分光分析計(GTN-9)で計測した。
- 2) 換算収量は百芽重と10aあたりの新芽数から算出した。

表1 一・二番茶の収量、新芽形質および荒茶中化学成分

茶期	試験区	収量 (kg/10a)	新芽形質			荒茶中化学成分(乾物中%)			
			新芽数 (本/m <sup>2</sup> )	百芽重 (g)	出開度 (%)	全窒素	遊離 アミノ酸	タンニン	NDF
一番茶	三番茶摘採	528 (103)	1723 (143)	31.7 (64)	27.7 (154)	6.2	4.2	12.5	16.2
	浅刈り(慣行)	512 (100)	1203 (100)	49.7 (100)	17.9 (100)	6.0	4.5	11.8	17.5
二番茶	三番茶摘採	548 (114)	1904 (96)	30.1 (88)	44.4 (163)	5.4	2.9	13.8	19.4
	浅刈り(慣行)	480 (100)	1983 (100)	34.4 (100)	27.3 (100)	5.4	2.9	14.5	19.3

- 1) 一番茶は2020~2022年の3か年の平均値、二番茶は2020~2021年の2か年の平均値を示す。
- 2) 表中の( )内の数値は、浅刈り区を100とした時の指数。
- 3) 二番茶は、3葉以上の芽を調査した。
- 4) 被覆はバロンスクリーン(遮光率70%)を用いた直接被覆で、期間は年次で異なり、一番茶は8~14日間、二番茶は7~8日間実施した。各年次において試験区間の被覆日数は同じである。
- 5) 1kg型小型製茶機を用いて荒茶を製造し、粉碎後、近赤外線分光分析計(GTN-9)で計測した。

表2 一・二番茶期の官能審査評点

茶期	試験区	形状	色沢	外観合計	香気	水色	滋味	内質合計	合計
一番茶	三番茶摘採	16.7	17.2	33.9	17.0	16.7	16.5	50.2	84.1
	浅刈り(慣行)	15.2	16.2	31.4	15.7	15.8	16.0	47.5	78.9
二番茶	三番茶摘採	13.8	14.0	27.8	14.8	14.3	14.0	43.1	70.9
	浅刈り(慣行)	12.8	12.8	25.6	13.3	14.3	14.3	41.9	67.5

- 1) 1kg型小型製茶機を用いて荒茶を製造し、官能審査は合議制により各項目20点満点の相対評価とした。
- 2) 一番茶は2020~2022年の3か年の平均値、二番茶は2020~2021年の2か年の平均値を示す。

研究課題名：「さえみどり」の減収要因の解明と高品質・多収栽培技術の確立

予算区分：県単

研究期間：2018-2022年度

研究担当者：川副菜々実、中村典義、野村幸代、釘本和仁、平野剛史、東島敏彦、山口史子

発表論文：川副ら(2022)茶業研究報告、134(別):44